

33 ～竜王山～ 5の組



小田の北面で1番高い山 619.8m.



竜王山は 雨乞いの山として 昔から小田の米作りに 大切な山だった。

日照りで 水不足の時は「雨乞い」を農民たちは そこで行った。頂上に祠があり その前に素焼きのカメが 埋めてあって 水があれば その年は 日照りではないので 村人は安心したと…云う。。

この名称の山は 瀬戸内海沿岸に数多くあり 水や雨をもたらす竜王を 山頂に祀り 雨乞いの煙を起すなどの 祭祀を行うために 天に向かって高く聳える山が 条件だった。小田の場合は 竜王山が適したのであろう。

34 ～竜王石～ 5の組



谷澤家(5の組)の上の 田の中にある。竜王山からここまで転げ落ちてきたと云う。また石の片割れが そのまま竜王山に残っていると伝えられている。

岩が落ちてきて大きな穴をあけ、そこから清水が湧いた。布近家(5の組)の西に「おしみず」という水の湧く所がある。その石がさらに転げ落ちて 今の地点で止まり残ったものであると云う。

35 ～歯 神社 (はがみさん) ～ 5の組



歯が 痛くなった時 歯神社にお参りした。その人の歳の数だけツツジの小枝を追って お供えし 拝んだ…すると帰る途中に歯の

痛みが治っていた…と云う (近くのお年寄り は子どもの頃そうした…)

36 ～阿 呆 池～ 3・5の組



池は 椋梨境にあって 水は 青谷社の青谷川に注ぎ 3・5の組に流れて 十数戸の稲作 灌漑用水として利用している。

寛永年間(1624～1644)。椋梨の夏焼神社が焼けた時 小田の男が 太鼓を持ち帰る途中で 池まで逃げて来て 尻をからげて「阿呆め…取れるものなら取ってみろ…」と云ったところから池の名前がついた (民話)。

大小二つの池からなつて水掛かりの関係者は 毎年池の周辺を整備している。ここへは大和町和木の「野呂観音堂」入口の表示から車道で池の側まで行ける。

37 ～小田グラウンド～ 3・5の組



小田区の圃場整備時(昭52～62)に 造成されたものである。その後バックネットやフェンスが 整備され 野球の練習や大会が 催されているし ゲートボール場もある。



現在は「寄りん菜屋」と同じく都市との交流施設として一般開放中である (申込みは 寄りん菜屋へ)。